

月ちゃの、煮豆

「月ちゃ」のがうまいだね。あんたの作ったのが食べたんだよ。そう言うってくれるのが何よりうれしい。

そう笑顔で話してくれるのは、鈴木月子さん。龍山町瀬尻で暮らす、元気いっぱいの「月ちゃ」は、生まれも育ちも龍山町。

煮豆を作った近所に配るの。そうするとみんなおいしいって言うってくれて、それを食べた人がまたそのお友達に紹介してくれて…。

「どんどん、私が作った煮豆の評判が広まってね、それでどんどん友達が増えていくの。」

主人が作ったた沢庵も近所の人たちに好評だね、美杉ファーム（西川地区にある農産物販売所）がオープンするときに「ぜひ出して」って頼まれたの。

それが始まりで、その後近所の人に配ってた「おぼた（ぼたもち）」をお客さんに食べてもらって感想を聞いたの。

「そしたら「俺はそんなに甘くない方が好きだ」というお客さんがいてね。そ



れでちょっと甘さ控えめに作ったらこれが受けちゃって、うれしくなっちゃった。

それからこの前は、うちの桜餅を食べた人が自宅まで電話をくれてね。「大好きな味だ」とって…。

「あっ、そうそう。ブルーベリーのお話をしなくちゃ。」

月子さんのお話は、止まらない。

「ここでちょっと一息。龍山町の逸品と言えば「ブルーベリー」を思い浮かべる人も多いのでは。」

龍山町では、平成15年ころから、町内に特産物としてブルーベリーを普及させ、栽培地域は全域にまで広まった。

ブルーベリーが作った仲間

最初、友達2人でブルーベリーをやるうと思っただの。まずは栽培できる畑を探そうと、町内をいろいろ走り回ったわ。

ようやく、いい畑が見つかったね。でもそこは茶の木が伸び放題の耕作放棄地。

2人じゃあどうしようもなくって、仲間を探しに声を掛けて回ったの。

1人増え、また1人増え、最終的には8人になり、さらにそのご主人たちにも助けてもらった。みんなで抜根したり石を拾ったり。今ではほら、ハウスもできて。みんなで作業するの。このグループの

活動が、私たちの元気の源になっているのよ。その畑を、サルやイノシシに荒らされてつらい時もあったけど…。

大量のアケビのおすそわけ

ほんと食べ物が結ぶ、人とのつながりで、今の私があるって言うてもおかげさやないくらい。昨日も「月ちゃにあげる」って、ハーモニカグループの人がアケビを持って来てくれてね。しかも段ボール箱いっぱい

の。こんなに頂いて申し訳ないやあって思うくらいにたくさんアケビ（笑）。そんな私をよそに、娘が「じゃあ、アケビの肉詰め、を作ろう」って。

これがほんとにおいしくて！嬉しかった。さっそくお礼を言ったの。グループのみんなにも声をかけてね、あつという間にダンボール箱は空っぽに。ごちそうさまでした。

そして、ハーモニカも、押し花も

ただ今、ほっとびあたたつやま産業祭での出店準備で大忙しの月子さん。

ブルーベリーの販売の他に、ハーモニカの演奏で舞台にも上がるそうよ。ブルーベリージャムはこうしてラッピングすると素敵ね。それからハーモニカは、曲名を書いた模造紙を掲げた方がいわね。

「あっ、そうそう。」

話があつちこつちに行くけど、これ（指さして）、押し花の作品、いいでしょ。ちょっと自己満足だけどね。頑張っちゃった。

月子さんは「ふしぎな花俱樂部」の押し花のインストラクターでもあるのよ。

息子には「もうやめな、あつちもこつちも、いろいろやりすぎだぞ」とって怒られるの。だから、ハーモニカの演奏会に出るのは内緒にしてね。

「うれしそうに話す月子さん。」

「月ちゃは忙しくないときとポケるよ」とってみんなが言うからね。みんな年を重ねてね。「やれるまで頑張ろう」とって、言ってるの。

「あっ、電話が鳴っている…」

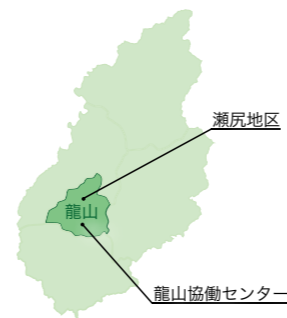
電話は、産業祭の次の出店に向けたグループの打合せのようだ。



▲いただいた「アケビ」



▲月ちゃおすすめブルーベリーヨーグルト



「月ちゃのがうまいだね」  
そう言うってくれるのが何より

「味、のある暮らし case.5 「龍山の月ちゃ」

暮らしが見える。感じる体温。  
Tenryu + Plus